

令和5年第11回 幸手市教育委員会定例会会議録						
招 集 期 日		令和5年11月14日（火）午前10時15分				
開 会 場 所		幸手市役所第二庁舎 2階 第1会議室A				
開会の日時・宣告者		令和5年11月14日（火）午前10時15分			山 西 実	
閉会の日時・宣告者		令和5年11月14日（火）午前11時34分			山 西 実	
出席 状況	職 名	氏 名	摘 要	職 名	氏 名	摘 要
	教 育 長	山 西 実	出席	教育委員	高 島 勝 也	出席
	職務代理者	会 田 研 司	出席	教育委員	藤 沼 寛 次	出席
	教 育 委 員	岩 崎 万 紀 子	出席	教育委員	古 沢 万 友 実	出席
傍聴人：0人				書 記：関 口 智 章・河 口 奈 緒		
議 事 参 与 者	職 名	氏 名	職 名	氏 名		
	教 育 部 長	小 林 秀 樹				
	総 務 課 長	服 部 道 春				
	学校教育課長	堀 越 成 夫				
	社会教育課長	仙 田 茂 雄				

会 議 事 件 名	顛 末
開 会 午前 10 時 15 分	教育長 開会を宣する。
日程第 1 前回会議録の承認	教育長 令和 5 年第 10 回教育委員会定例会の内容について質問を求める。 《質疑》 質疑なし。 《承認》 全員異議なく承認。
日程第 2 議 事 議案第 21 号 令和 5 年度幸手市一般会計補正予算(第 6 号)教育費の要求について	教育部長 議案書により説明する。 《質疑》 質疑なし。 《採決》 全員異議なく原案どおり議決。
議案第 22 号 指定管理者の指定について	社会教育課長 議案書により説明する。 《質疑》 藤沼委員 2 点ある。1 点目は、現在の契約に比べ、コストが 1 億 5 千万円増加している。光熱水費や人件費の上昇以外に、サービス面でのプラスアルファがあるのか。 2 点目は、現在の契約相手である共同体から NTT ファシリティーズが抜けたのはなぜか。 社会教育課長 コストについては、武道館の窓に遮熱フィルムを貼ってもらったり、劇団四季のようなイベントを積極的にやってもらえると考えている。 契約相手については、市が指定するものではなく、あくまでも業者の事情によるものである。NTT ファシリティー

議案第 23 号 教育委員会の事務に	ズは主にハード面を担当しており、日本環境マネジメントも 10 年の経験があることから、単独での契約に移行したのではないか。 藤沼委員 指定管理のメリットは企業の提案力である。契約時の 5 年に 1 回だけでなく、通常のワークフローではなく何回でも提案してもらうような仕掛けづくりをお願いする。 社会教育課長 定期的にモニタリング会議を開催している。事業の進捗状況、問題点について評価し、提案があったものはチェックしている。 高島委員 前回は何社か応募があったのか。随意契約のように競争がないと、後になって契約履行が難しくなるようなことはないか。 社会教育課長 現在の契約も応募は 1 社だけだった。別の施設ではあるが、以前問題があったことがある。契約相手を指定するための評価は、最低の基準点を設定してクリアしているか評価している。 教育長 施設全体で入札に応じる企業が減っているのか。 教育部長 最初の業者を決める際は複数あったかと記憶しているが、回を重ねると、新規に参入するというよりは現在の業者が強いということはある。 岩崎委員 今回の業者は、ほかにどのような施設の実績があるのか。 社会教育課長 関東に 30 以上の事務所を構え、久喜菖蒲公園のほか県外にも多数の実績があると聞いている。 《採決》 全員異議なく原案どおり議決。 総務課長 議案書により説明する。
-------------------------------	---

関する点検及び評価 報告書について	《質疑》 岩崎委員 これだけの事業があって、知らないことも多い。素晴らしい事業に取り組んでも、アピールをしないのはもったいない。当たり前だと思われてしまう部分もあるので、是非、周知をしてほしい。 教育長 当たりの取組みをいかに周知していくかは課題である。 藤沼委員 確かな学力の育成について2点ある。まずは、勉強がなぜ大切なのか、学校に行くことの重要性、そういった全体像が十分できつつあると感じた。 2点目は英語教育について。英会話の勉強をしているが、英語の先生でもコミュニケーションは難しいと言っている。ALTを上手に活用して、楽しい英語教育を実践してほしい。 高島委員 日本と外国の文化の違いはある。社交的な人は英語能力が向上しやすく、真面目な人は難しい傾向にある。間違いを気にしすぎることが原因。日本人は基本的に恥ずかしいと感じてしまうことが多いが、それを克服すればコミュニケーション能力は高くなると言える。 また、西中学校とさかえ小学校の研究発表を比べてみたが、中学校に課題が見えた。中学校は発表で終了したが、小学校は分科会で研究協議を行い、指導法改善を目指す姿勢が見えた。 中学校の合唱コンクールでも、市民まつりの日と重なり、行けない保護者もいたのではないかと感じたので、配慮がほしかった。 学校教育課長 市のイベントと学校の行事が可能な限り重ならないよう注意していく。 会田職務代理者 22 ページについて。いじめの相談件数が全国で過去最多の68万件と言われる中、幸手市の中学校では3件とのこと。幸手市の件数が少ないのは喜ばしいが、過去最多というニュースを見ると素直には喜べない。
------------------------------	--

	そこで、いじめと不登校の生徒数が定例会に資料として提示されるといい。別の市では、毎月の校長会で件数が報告されていた。毎月ではなくとも定期的に報告をしてもらえれば。 学校教育課長 幸手市も校長会では提示しているので報告は可能である。件数については、いじめの定義が変わることもあり、幸手市でも急増したことがある。認知漏れのないよう努めていく。 岩崎委員 不登校に関しては、以前はコロナ関連は含めなかった。今は含めるのだとすると、不登校の数は増えてしまうのかと思う。数だけにこだわることがないようお願いする。 古沢委員 32 ページで臨時休業に触れている。特に低学年でタブレットを持ち帰って学習する学校と、プリントを持ち帰って紙で学習する学校と、学校によって差はあるのか。 学校教育課長 学級閉鎖の際は、家庭と学校をつないで体調の確認をするようなことはやってきた。学習の面についてはやらないということなのか、学校ごとの具体的な状況は不明。 タブレットが使えるのであれば、その中でドリル学習はできるので、現状を確認しながら徹底していく。 教育長 低学年はランドセルで持ち運ぶのが大変だから持ち帰らせないでほしいという保護者の意見があったと聞いている。 高島委員 タブレットで何でもできるという訳ではない。紙での学習がいいこともあるので、タブレットに囚われないように注意してほしい。 藤沼委員 図書館のスペースが狭くなったと感じる。それにより本が置けないとか、廃棄を進めなければならないといった弊害はないか。 社会教育課長 施設のキャパシティは決まっているので、置ける本は限られてしまう。奥の倉庫にも本は置いてあるが、破棄せ
--	---

専決報告第 20 号 臨時的任用教職員の 内申 日程第 3 行政報告 1 教育長報告 2 事務局からの 主要な報告	ざるを得ないこともある。 藤沼委員 過去の貴重な本は未来に引き継ぐべき。施設を大きく する計画も必要ではないか。 社会教育課 図書館については、施設計画の中で別の建物と複合化 している。その際は、スペースを確保して本の数 も維持していきたい。 《採決》 全員異議なく原案どおり議決。 学校教育課長 議案書により説明する。 《質疑》 質疑なし。 教育長 1 各種教育長会議等 について資料により説明する。 総務課長 1 令和 5 年度学校給食調理コンクール表彰関係 学校教育課長 1 表彰関係 2 幸手市・北葛飾郡市中学校駅伝大会 3 幸手市小学校ロードレース大会 4 埼玉県中学校駅伝競走大会（全国中学駅伝埼玉県予 選会） 5 令和 6 年度当初人事異動に関して 6 今後の主な行事予定 社会教育課長 1 人権作文発表会（幸手市人権教育推進協議会） 2 図書館まつり実行委員会 3 図書館の臨時休館について 社会教育課長（公民館）
---	---

	1 10月の利用状況 2 事業報告 3 今後の事業予定 社会教育課長（郷土資料館） 1 報告事項 2 今後の事業予定 社会教育課長（図書館） 1 報告事項 2 利用状況 3 今後の事業予定 4 予約の多い図書（上位5冊） 社会教育課長（体育施設） 1 利用状況 2 自主事業 3 今後の自主事業 について資料により説明する。 《質疑》 岩崎委員 公民館のスマホチャレンジ教室は、何歳ぐらいの方がいたのか。 社会教育課長 50歳代から70歳代がいた。
日程第4 その他 1 次回定例会の日程	各委員の意見を調整した結果、12月の会議については、次のとおり決定する。 令和5年第12回教育委員会定例会 日時 令和5年12月12日（火） 午前9時30分 会場 幸手市役所第二庁舎 2階 第1会議室A
2 次回の協議事項	総務課長 「不登校対策の推進について」とする。
3 その他	なし

閉 会
午前 11 時 34 分

教育長
閉会を宣す。

ほ か 特 に 重 要 と 認 め る 事 項	な し
	上記会議の顛末を記載し相違ないことを証するため、ここに署名する。 令和5年12月12日 教 育 長 山 西 実 署名 署 名 委 員 古 沢 万友実